かがやく都市

大池容子

【登場人物】
松崎　……　高校三年生。地球人。
佐々木華　……　高校二年生。宇宙人（？）。
石野　……　高校で非常勤講師をしている男。地球人。
佐々木譲　……　工場を経営している男。華の兄。宇宙人（？）。
謎の女　……　宇宙人の情報を集める女。地球人。

舞台中央に大机が一つと、椅子二脚。
舞台奥に、小机と椅子一脚。
このエリアは主に［高校・美術室］［工場・事務室］として使用される。
大机の上には、小さな広場を模したベンチとクロックタワーの模型が固定されている。
この小さな広場は、石野だけに見えている。
小さな広場の中に、一体のデッサン人形。

舞台上手前にベンチが一脚。
このエリアは主に［広場］［工場・中庭］として使用される。

上手奥、下手奥に出入り口。

○高校・美術室

選択科目「都市計画」の授業中。自習。
高校三年生の松崎、都市の模型を作っている。
高校二年生の華、デッサン人形に様々なポーズをさせて遊んでいる。
華の頭には、アンテナのような銀色の触覚が二本生えている。

華　雨上がりの日に、
松崎　え？
華　あなたはジョギングをしています。
松崎　はい。
華　すると、すぐ横を車が走ってきて、泥水をバシャンと引っ掛けていきました。さて、あなたは、どう思う？
松崎　ど、え？
華　A、ムカつく。B、追いかけて文句を言ってやる。C、何でこんな目に遭うんだ。D、ついてないなあ。さあ、どれ？　チッチッチッチッチ……
松崎　……CとDの違いが分かんないんだけど。
華　どう思う？　チッチッチッチッチ……
松崎　……D。
華　D、ファイナルアンサー？
松崎　ファイナルアンサー。

華　D、ついてないなあ、を選んだあなたは……物事を引きずらない、あっさり、さっぱりしたタイプの人間でしょう。
松崎　……はあ。
華　第二問、デデン。あなたは数日前に買ったチョコレートを食べようとしました。しかし、そのチョコレートは、溶けて形が崩れていました。さて、どうする？
松崎　……
華　チッチッチッチッチ……
松崎　ああ、選択肢とか無いんだ。
華　（頷いて）チッチッチッチッチ……
松崎　えー……食べる。
華　食べる。ファイナルアンサー？
松崎　ファイナルアンサー。
華　溶けて崩れたチョコレートでも食べると答えたあなたは……

華、学生鞄から、心理テストの本を取り出して、ページをめくる。

華　とっても未練がましく、ウジウジした人間です。……矛盾してますね、さっきのと。
松崎　そうねえ。
華　もうちょっといいの、ないかな。（と、ページをめくる）
松崎　え、佐々木さんさあ……
華　あ。第三問。デデン。庭を進むと、あなたは自分が水の中にいることに……
松崎　（遮って）あ、あ、ごめん。……早くも、お腹いっぱいかも、心理テスト。
華　え……じゃあ……なぞなぞやります？　超難問、意地悪なぞなぞ。
松崎　や、なぞなぞも、いいかなあ。
華　ああ……。
松崎　うん。……ていうか佐々木さん、間に合うの？
華　……はい？
松崎　課題。全然進んでないじゃん。
華　あー、大丈夫ですよ。どうせ先生、来ないし。絶対これ、このまま自習で終わりますよ。
松崎　まあねえ……。
華　マジ、やる気ないですよね、あの人。……クビになんないのかな。
松崎　あー、まあ、石野先生はさ、他の教科の先生と違うじゃない。先生だけやってるわけじゃないから。
華　そうですけど。仕事あるんですか？　あの人。
松崎　おん。だってほら、実績が、あるじゃない……教頭もさあ、（声色を変えて）「石野くんはこの街の誇りです！」とか言ってたしさ……。
華　でも、あれぐらいですよね？
松崎　うん？
華　あの人が、デザインしたのって。

と、窓の外（舞台上手の方向）を見る、華と松崎。
美術室の窓からは、広場が見える。
広場のベンチには、謎の女が座っている。
真知子巻き、サングラス、トレンチコートという出立ちで、新聞を読んでいる。

松崎　そうだけどさ……。
華　なんか。イマイチ分かんないんですよねえ。
松崎　え？
華　……あれの、良さが？
松崎　そお？
華　だって、何にもないじゃないですか、あの広場。
松崎　それがいいんじゃん。何にもないのが。
華　もっとこう……モニュメントがバーンとか、アーティスティックな物体がドーンとか、そういう感じだったら、あっデザインしてるなー、って分かるんですけど。

石野、美術室に入って来る。
窓の外を見ている松崎と華は、石野に気付かない。

松崎　いやいやいや、そうじゃなくてさ……広場という「存在」が？　街の中で……いや。都市の中で？　重要な役割を持つわけじゃない。
華　は？
松崎　いやだからさ。人が、集まる、わけじゃない。広場って。その「場」をデザインするっていうことが、ここで言うデザインってことであって……
華　春、夏、秋、冬、
松崎　え？
華　一年の中で最も長い日数なのは、どれでしょう。
松崎　……心理テスト？
華　なぞなぞ。
松崎　ああ……（考えて）それって、北半球の話？（と、華の方を振り返る）
・・・
松崎　（石野に気付いて）……びっくりしたあ。
石野　こんにちは、
華　こんにちはー。
松崎　ちょっ、声かけてくださいよ。来てるんだったら……。
石野　すいません。
松崎　（華に）ほら、どうすんの。来たよ、石野先生。
華　えでも、意味ないですよね。
松崎　うん？
華　だから、人が集まる、とかって話？
松崎　え？

華　だって、この街、もう、だーれもいないじゃないですか。どんどん人、いなくなっちゃって。
松崎　や、そう、だけどさあ……（石野に）ちょっ、なんか、バシッと言ってやってくださいよ。
石野　一年？
松崎　へ？
石野　一年。
松崎　……はい？
石野　春、夏、秋、冬、一年の中で最も長いのは。一年。……春、夏、秋、冬、一年。
松崎　……ああ。
華　ピンポンピンポーン。（と、拍手）
松崎　いや、なぞなぞいいから。もう、授業やってくださいよ。あと三十分。
石野　あ、いいですよ、自習で。
松崎　ええ？
石野　来週からもう、この授業無いんで。
松崎　はっ？
石野　すいませんけど……「都市計画」の授業は、これでおしまいです。なんで次からは別の選択授業、取ってください。
松崎　え、え、え。
石野　じゃあ、お元気で。さよならー。（と、行こうとする）
華　さよならー。
松崎　ちょちょちょちょちょちょ……！
石野　……何すか。
松崎　え、ちゃんと、アレしてくださいよ。
石野　はい？
松崎　や、だからその……説明っていうか、してもらわないと。そんな急に、終わりですって言われても……困るんで、こっちも。
石野　……。
松崎　え、え？　どうしたんですか、え？
華　マジでクビになったんじゃないですか。
松崎　そ、んなことないですよねえ？　……大丈夫ですよ！　元気出して先生。ねっ。大丈夫大丈夫。先生は、この街の、
石野　先生とか、やめてもらっていいですか。
松崎　……はいっ？
石野　そんな、ちゃんとした大人みたいに呼ぶの、やめてもらっていいですか。
松崎　え、え、え？
石野　すいません。

石野、小机の上に置かれていた数冊の本を持って、出ていく。

松崎　ええ……。
華　……先輩なに取ります、選択授業？
松崎　ええそんな感じ？
華　だって……。
松崎　……。

松崎、作りかけの都市の模型を持って、石野を追って出ていく。
譲の声が、華にだけ聞こえてくる。

譲（声）……華……華……

華、自分のこめかみに人差し指を当てる。

譲（声）は～な～。
華　……やめて。
譲（声）あっ。まだ授業中？

華、立ち上がって出入り口から廊下を覗き込む。
人がいないことを確かめ、再びこめかみに人差し指を当てる。

華　……やめてって……何回言ったら分かんの？
譲（声）え？　ごめん。
華　……なに。
譲（声）や、帰りにさあ、牛乳買って来てくんない？
華　……牛乳？

華、小机の上の銀色の石（石野の忘れ物）を手に取る。

譲（声）うん。コンビニのやつでいいから。あの、いつもの……
華　え待って待って。
譲（声）うん？
華　えっ、そんなことのために、直接脳にアレして来たの？
譲（声）え？
華　なんでさあ。携帯あんのにさあ。直接脳に喋りかけてくるわけ？　メールで良くない？
譲（声）いやいやいや……だって……こっちの方が便利だから……

石野、美術室に戻ってくる。

華　あっ。石野先生……。
石野　すいません、それ（と、華が持っている銀色の石を示す）。

華　あ……はい……（と差し出す）
石野　（受け取って）じゃっ、お元気で……

石野、去る。

華　あちょっと……

別の場所（工場・事務室）に、作業着姿の譲が浮かび上がる。
マイクを持ち、華の脳内に直接語りかけている。
華と同じく、譲の頭にもアンテナのような銀色の触覚が二本、生えている。

譲　え、え、石野くんいるの？　石野くんの授業って今日なんだっけ？　ねえ石野くんって最近、
華　うるっさいなあ！　だまれ。
譲　……黙れ……
華　もう、石野くん石野くんうるさい。……ていうか全然覚えてなかったんですけど、あの人。
譲　へっ？
華　お兄ちゃんのこと。全っ然覚えてなかったから。
譲　え、え、え。
華　佐々木譲の妹です、って言っても、ああ、ああ、ああ……みたいな感じだったんですけど。
譲　それは、え、どっち？
華　ピンと来てなかった、って言ってんの。何が親友だよ恥ずかしいなあ……
譲　嘘嘘、それは嘘だって。えーちょっと石野くんにさあ……
華　（遮って）先生、学校辞めるっぽいから。もう、そっとしといてよ。
譲　え、え……？　なんで？
華　牛乳買って帰る。

華、心理テストの本を乱暴に鞄に入れ、デッサン人形を手に取る。
人形にポーズを取らせて遊び、やがて美術室を出ていく（次の場面に重なる）。
別の場所（工場・事務室）の譲、携帯を取り出して電話をかけるが、相手は出ない。

○広場

模型を持った松崎が、とぼとぼと歩いてくる。
ベンチに座っていた謎の女、サングラスを下げて松崎をじっと見る。

謎の女　すいません。
松崎　はいっ？

謎の女　アンケート、よろしいですか？
松崎　……アンケート？
謎の女　今回、猫についてのご意見をうかがっております。五分ほどお時間いただきます。ご協力いただいた方には、五百円分の図書カード差し上げております。
松崎　あ、はあ。
謎の女　ご協力いただけますか？
松崎　あ、じゃあ、はい……
謎の女　ありがとうございます。（手帳を取り出して）猫に対する都民の意識調査です。下記の質問に対する回答をマルで囲んでください。なお、該当する回答がない場合にはカッコ内に記入してください。
松崎　え、あ、
謎の女　あっ、私が申し上げますので……。あなたは猫が好きですか？　A、好き。B、嫌い。C、どちらでもない。
松崎　……A。
謎の女　A、好き。ありがとうございます、続きまして……猫に対するあなたの印象について、当てはまるもの全てにマルをつけてください。（早口で）A、可愛い。B、きれい。C、か弱い。D、怖い。E、汚い。F、ふてぶてしい。G、不気味だ。H、特に印象は無い。I、その他。
松崎　えっと……（謎の女の手帳を覗き込もうとする）
謎の女　ああ、口頭で。お願いします。
松崎　あっ、えーっと……じゃあ、可愛い。
謎の女　A、可愛い。他にございますか？
松崎　あー……ふてぶてしい？
謎の女　F、ふてぶてしい。……若干矛盾した回答になっておりますが。
松崎　あいや。こう……ふてぶてしいところが可愛い、みたいな、そういう感じ？　あるじゃないっすか。
謎の女　ああ。続きまして、猫の生息状況についてお伺いします。今年に入って、この広場で野良猫・放し飼いの猫を見たことがありますか？
松崎　この広場で？　……は……無いっすかねえ。
謎の女　（遮って）A、見た。B、見ていない。
松崎　……B。見ていない。
謎の女　B、見ていない。ありがとうございます。それでは、この広場で猫を見ないことについて、関連すると思われる事柄はありましたか？　A、ゴミ捨て場の管理が変わった。B、餌をやる人がいなくなった。C、宇宙人が現れた。D、自動車などの交通量が……
松崎　え、え、え、え。……えっ？　何ですか。
謎の女　自動車などの交通量が増えた。
松崎　あっ、それじゃないっすね。その前かな。
謎の女　C、宇宙人が現れた。
松崎　え、何すかそれ、え。
謎の女　はい？

松崎　宇宙人が現れた……？
謎の女　C、宇宙人が現れた。ありがとうございます。
松崎　あ、違う、違います。
謎の女　続きまして宇宙人の生息状況についてお伺いします。近所で宇宙人を……
松崎　（遮って）あーいやいや。見たことないです。宇宙人は。
謎の女　はい？
松崎　一回もないです、見たこと。
謎の女　でも、さっき。
松崎　いや違いますって。……てか関係ないでしょ。猫と、宇宙人……。

そこへ、一リットルのパック牛乳を抱えた華が現れる。
松崎と謎の女のやり取りを見ている。

謎の女　……あ、ご存じない？
松崎　はいっ？
謎の女　キャトルミューティレーション。
松崎　は？
謎の女　……調査によるとアメリカ人の三人に一人が、宇宙人は人間や動物を誘拐しているだろうと回答しております。その内の三十七パーセントが……
松崎　あ、あ、あ。ちょっと……あのー、急いでます、僕。
謎の女　えっ。
松崎　急いでるんで……すいません、また今度、（と去ろうとするが）
謎の女　（文庫本を取り出して）イギリスの作家、H・G・ウェルズの『宇宙戦争』。
松崎　えっ。
謎の女　これに全部、書いてあります。文庫版、八百三十六円。
松崎　あ、いや、買わないです……！
謎の女　（文庫本を開いて読む）地球上の人間が、たえまなく戦争をしているのは、人間があんまり多すぎるからだ。なんとかして、地球のほかに、人間の住める新しい世界をみつけて、地球上の人間を、ごっそり半分ぐらい……

音楽。和田アキ子の『あの鐘を鳴らすのはあなた』（カラオケ）が流れる。
華、牛乳パックの中からマイクを取り出し、謎の女をじっと見つめながら歌う。
謎の女、なぜか頭を押さえてしゃがみ込む。

華　（歌っている）
松崎　佐々木さん？
謎の女　（頭を押さえて）え、あ、ちょっ……。
華　（歌っている）
松崎　（しゃがみ込む謎の女に）え、大丈夫ですか、えっ……。（華に）佐々木さん、ちょ、その歌やめて。（謎の女に）大丈夫ですか？　ちょっと……ちょっと？

謎の女、立ち上がって華と一緒にサビを歌う。

華・謎の女　（歌い続ける）

松崎　え、え、は？

華、歌う謎の女を残して去る。

謎の女、意識を失う。

松崎　（謎の女に）え、大丈夫ですか？　ちょっと。ちょ、ちょっ、待っててください。すぐ戻るんで！

松崎、模型をベンチの上に置いて、その場を去る。

音楽、消える。

謎の女、目を覚ます。

レジ袋を持った石野、缶ビールなどを飲みながら歩いてくる。

石野　え、大丈夫……？

謎の女　あっ……アンケート、よろしいですか……？

石野　はいっ？

謎の女　今回、猫についてのご意見をうかがっております。五分ほどお時間いただきます。

石野　え、いや。

謎の女　ご協力、いただけますか？

石野　あ、いえちょっと。

謎の女　五百円分の図書カード差し上げておりますが。

石野　や、大丈夫でーす。すいませーん。

と、石野、立ち去る。

謎の女　ああ……。

○工場・事務室

譲、小机でメールを打っている。

そこへレジ袋を持った石野が現れる。

石野　……おーす。

譲　おおおー、うぃーす。

石野　え、ごめんなんか。（レジ袋を示し）適当に、アレしちゃったけど。

譲　あーうんありがと、座って座って。

石野　おお、おお。

譲、一度出て行き、漫画数冊を持って戻って来る。

譲　これ読んだ？　読んでる？
石野　いや……読んでない。
譲　読む？
石野　……読まない。
譲　あそう。（漫画を開いて読み始め）あ、全然、アレしてて。
石野　……おん。

静かに漫画を読んでいる譲。
石野、しばらくそれを見ているが。

石野　……いやマジで。安心するわ。
譲　ん、えっ？
石野　いや、普通の大人はね、人呼んどいて無言で漫画読んだりとか、しないのよ。
譲　え？
石野　だって十五年ぶり？　……もっとか。に、会うんだからさあ。こう……最近、どんな感じ？　みたいな話、するのが普通でしょう。
譲　え？　でもこんなだったじゃない。石野くんとおれが、遊ぶってなったら……
石野　うん、だから。高校生の時は、そうだったけども。
譲　おれ漫画読んでて、石野くんはなんか模型とか、アレしてて。
石野　そうそう、十五年前はね。でも十五年前じゃないから。おれたちは、大人になったから。
譲　大人かあ……
石野　……お前、そんなんでよく工場回せてるよな。
譲　ああ。だっていまだに言われるもん。
石野　え？
譲　これだから宇宙人は、って。
石野　おお。
譲　今日もさ、妹にすっげえ怒られちゃって。なんか、牛乳買って来て、って言っただけなのに、すっげえ怒られた。
石野　え、なんで。
譲　脳内に直接喋りかけてくんな、って。携帯とか使えよ、って。
石野　ああ、なに、テレパシー的なこと？
譲　そ、そ。や、妹も宇宙人なんだけどさ。生まれてすぐ、こっち来たから。ほとんど地球人の感覚なんだよね、あいつ。おれ小学校まで向こういたから、やっぱ地球人の……
石野　あ、あ、ごめん。……ちょっとねえ、やりすぎだわ。
譲　……やりすぎ？
石野　あのー、あれなのよ、そんな、テレパシーとか要らないの。お前が、妹に虐げられてる、

っていう、普通のエピソードを求めていたわけだから。変な宇宙人のディティール、要らないのよ。

譲　あー……うん？

石野　わかんねえか……。だからあ、お前の……「その感じ」が、宇宙人だってことなのよ。おれらからしたら。

譲　ん？

石野　例えばさあ……ほら、あれ、あいつ。（シャドウボクシングをして見せて）なんでボッコボコにしたんだっけ？

譲　（石野の動きを真似して）え、え？

石野　あれだよ。お前の……いっちばんヤベえエピソード。……頂戴よ。リコちゃん先生のさあ、

譲　ああ、ああ……えなんだっけ。

石野　リコちゃん先生が。産休で。休職するってなった時。……お前、旦那さんボッコボコにしたでしょう。

譲　ああうん、したした。

石野　なんでだったんだっけ？

譲　だから……リコちゃん、言ってたでしょ。（声色を変えて）「卒業までみんなと一緒にいたかった」って。

石野　おう。

譲　泣いてたから、リコちゃん。よくないなあって思ったんだよ。そもそも旦那さんがいなければ、そういうことには、ならなかったわけだから。

石野　うん……いいねえ、震えるねえ。……こうゆうのが、お前に求められてる宇宙人エピソードなの。分かる？

譲　うーん……難しいね。

と、再び漫画を読み始める譲。

石野　……おおお。

○広場

謎の女、ベンチに座って、松崎が作った都市の模型を眺めている。
二百ミリリットルのパック牛乳を持って現れる、松崎。

松崎　あ、あ、あ、大丈夫ですか。

謎の女　……ああ。

松崎　あの、飲みます？　なんか家にコレしか無くて……（と牛乳を差し出す）

謎の女　ありがとう。

謎の女、パック牛乳を受け取って、ベンチに置かれた都市の模型の上に置く。

松崎　（それを見て）あっ。
謎の女　ん？
松崎　や……大丈夫ですか、その、救急車とか……
謎の女　ううん、大丈夫。ありがとう。
松崎　ああ。（と、模型を気にしている）
・・・
松崎　いや、あのー……この時間？　もう誰も広場来ないと思うんで……どっか違うとこ、アレした方がいいかもしれないです。
謎の女　うん？
松崎　あ、いや、分かんないすけど。なんかその、決まりとか？　あるのかもしんないですけど。基本この広場、誰も来ないっす。
謎の女　え、ああ。
松崎　おれは好きなんですけどね。この、何にもない感じが。まあでも大体の人、そうでもないみたいなんで……。
謎の女　ああ。

謎の女、松崎に『宇宙戦争』を差し出す。

謎の女　これ、どうぞ。
松崎　えっ、いや、買いません。
謎の女　あげるから。読んで。宇宙人のことは、全部書いてあるから。
松崎　いや、なんでそんな、宇宙人のこと、アレするんすか。
謎の女　え。
松崎　だって、いるわけないじゃないですか、宇宙人なんか。
謎の女　でも、さらわれたんですよ、主人が。
松崎　……えっ。
謎の女　この広場で。主人と、いつもあの人がミルクをあげてた猫が、さらわれたんです。宇宙人に。
松崎　ああ、え？　えー……？
謎の女　なに、信じてないの。
松崎　いやだって……どっから出て来たんすか、宇宙人って。
謎の女　……え？　でも、意味わかんないでしょう。そんな、なんの理由もなくいなくなっちゃうとか。
松崎　うん？
謎の女　普通だったから、ほんとに。いなくなる前の日まで。全然、普通だったの。普通にご飯食べて。普通に、おやすみって、言ってたから。……さらわれたんです、主人は。宇宙人に。

謎の女、都市の模型に触れる。

松崎　ああ……（と、模型を気にする）

・・・

松崎　だい、じょうぶです。

謎の女　え？

松崎　います。宇宙人いますよ。大丈夫です。

謎の女　え、え。

松崎　あー、この街からどんどん人がいなくなっていたのは、宇宙人のせいだったのかあっ。考えたこともなかったあ。

謎の女　ああ……？

松崎　あー、そのお……大丈夫です。旦那さんは、宇宙人にさらわれただけで、多分めっちゃ元気に生きてるし、その、お姉さんにすげえ会いたがってると思います。……いなくなりたくて、なったわけじゃなくて。

謎の女　うん。

松崎　はい。なんで……頑張ってください。きっと旦那さん、戻ってきますよ。こう、何事もなかったみたいな感じで……

と、模型を取り返そうと手を出す松崎。

謎の女　あなたが作ったの？　これ。

松崎　ああ、はい。「理想の都市」っていう課題で……。

謎の女　……懐かしい。

松崎　うん？

謎の女　昔のこの町みたい。まだ建物とかも、そんな無くて。

松崎　はあ。……お姉さん、何歳なんっすか……？

と、謎の女、模型の中のビルを一つ、引っこ抜いてしまう。

松崎　えっ。

謎の女　（気にせず、松崎が持っている『宇宙戦争』を示し）それ。ここで読んで。

松崎　え？　いやいやいや……

謎の女　いいから。

松崎　いや……。

謎の女　あなた、それ好きだったでしょう。ボロボロになるまで、何回も読んで。

松崎　え……？

謎の女　うん？

松崎　……いや、あの……違います。

謎の女　ここで。読んで。

松崎　え、や、すいません。それ……（と、模型を指差す）

謎の女　？

謎の女、引っこ抜いてしまった模型のビルを松崎に手渡す。
松崎、渡されたビルをしばらく見て、そっと握りしめ、やがて立ち去る。

謎の女　ああ、ちょっと……？

○工場・事務所

小机で漫画を読んでいる、譲。
大机で缶ビールを飲んでいる、石野。
華、パック牛乳を持って入ってくる。

華　ただいまー……
・・・
華　（石野を見て）えっ。
石野　え……？
譲　おかえりー。（譲に）あ、妹の、華。
石野　……佐々木さん？
華　えなんで……
譲　石野くんの授業アレしてたんだよね。（石野に）あっ、妹がいつも、お世話になっております。
石野　え、マジ？　えー言ってよ、ちょっと……
譲　（華に）え、言ったんだよね、佐々木譲の妹です、って。
華　ちょっ、え、なんで。何してんの。
譲　はい？
華　だから、なんで……？
譲　なんでって。遊んでんの、久しぶりに。
華　はああ？
譲　何よ。遊ぶぐらい、いいでしょ。
華　……てか先生ほったらかして漫画読んでんじゃん。意味わかんない。
譲　おう。さっき石野くんにも、それ言われた。
石野　ああ、佐々木・妹はマトモだ。
譲　でしょ？
華　え、すみません、なんか。
石野　うん、大変だね。
華　あの、ちょっと意味わかんないこと言ってたかもしれないんですけど。全然、スルーで、大丈夫なんで。
石野　ああ、うん。
譲　ちょっと……。
華　ほんと全然……はあ？　って思うこととか、いっぱい言ってると思うんですけど……

石野　大丈夫大丈夫、慣れてるから。
華　え、ああ……
譲　石野くんは大丈夫だから、そんなアレしなくていいの。ほら、宿題とかあんじゃないの？
華　ねえ、ほんとさあ……。

と、パック牛乳を小机の上にドンと置く、華。

譲　なによ。
石野　（レジ袋の中からお菓子を取り出して）あー、佐々木さん、食べる？　これ……
華　えっ、いや……
石野　ジュースもあるけど。冷やしときゃ良かったね。
華　あ、いえ。すいません。
石野　（二本のジュースを見せて）どっちがい？　炭酸飲める人？
華　え、じゃあ……こっちで。いただきます……
石野　おう。（譲に）お前は？　なに飲む？

譲、立ち上がる。

石野　どした？
譲　ちょっと待ってて。……ちょっと。

と、出ていく譲。

華　ええ……？
石野　しょうがねえなあ、あいつは。
華　……すいません。
石野　いいのいいの、もう。ほっとこ。はいっ、かんぱーい。
華　……かんぱーい……。

と、石野は缶ビールを飲む。
華は、譲が出て行った方を気にしている。

石野　あー……大丈夫よ、そんな。適当に帰るから、おれも。
華　あ、いえ、その。
石野　なんか意外とめんどくさくてさ、そのー、手続きとか。……サクッと辞めさせてくんないみたいなのね。年度末までは、どーのこーのとかって。
華　まあ、そりゃあそうですよ。
石野　ああ、まあ、そっか。
華　急に辞めるとか言って、困ってましたよ、先輩も。

石野　すいません。
華　……え、何でなんですか？
石野　うん？
華　何で学校、辞めようって思ったんですか。
石野　え、うーん……。

譲、人生ゲームを持って戻ってくる。

譲　ねえねえねえ。これ、やらない？
石野　え、なになに。
華　え、それって……
譲　人生ゲーム。懐かしいっしょ。やらない？
石野　いや、懐かしいけど……。
譲　やろやろ。じゃあ華、銀行の人ね。
華　えっなんでよ？
譲　えーだって……あ、おれビール貰っていい？
石野　おう。飲め飲め。
譲　ありがと。だって、そろばんやってたじゃない、華。
華　やってたけどさあ……。そんな、当たり前みたいにアレしないでよ。

華、出ていく。

譲　え、ちょっと？　やんないの？　華？
・・・
譲　じゃっ、石野くんから。
石野　うーん。お前と二人はヤだわ、人生ゲーム。
譲　ええ？　そうお？
石野　うん。
・・・
譲　華あ、やっぱ三人じゃないとできないってー……

と言いながら出ていく、譲。

石野　あっ、ちょい、違う……。

石野、一人残される。
人生ゲームのルーレットを回し、一人でコマを進める。

○広場

謎の女、牛乳を飲む。
和田アキ子『あの鐘を鳴らすのはあなた』をアカペラで歌う。
次のシーンと重なる。

○工場・事務室

一人で人生ゲームを続けている石野。
華、五百ミリリットルのパック牛乳と、皿を持って通り過ぎようとする。
華の胸ポケットには、小さなデッサン人形。

石野　どっか行くの？
華　……散歩です。
石野　ああ……？
華　すいませんけど、お兄ちゃんと二人でやってください。人生ゲーム。
石野　ああ、おお。

華、出て行こうとする。

石野　あの……佐々木さんのせいじゃないからね？
華　え？
石野　辞めたくなったの。佐々木さんは、関係ないから。
華　いやいや、分かってますよお。
石野　ああ、そっか、うん。
華　だって別に、問題になるようなこと、してないじゃないですか。
石野　うん、そうだよね。
華　私が勝手に、フラれたってだけだから。
石野　……うん。
華　うん。……えでも言いましたよね、私？
石野　えっ？　何が？
華　佐々木譲の妹です、って。最初に。
石野　ああ、言ってたかも。
華　全然ピンと来てなかったじゃないですか。
石野　いやそれは、だって……あまりにも？　遠かったから。
華　うん？
石野　だって佐々木さんはさあ……ちゃんとしてるじゃない。
華　はあ。
石野　でもアイツはほら、宇宙人でしょう。だからこう、パッと聞いて、入ってこなかったっていうか。結び付かなかったからさあ。
華　え……
石野　ん？

華　宇宙人？
石野　……あ、ごめん。宇宙人っていうのはアレか。だからその、ちょっとズレてるっていうか、あいつの「あの感じ」が……
華　先生は、宇宙人でも、いいんですか？
石野　へ？
華　友達でいてくれるんですか、お兄ちゃんと。
石野　え。……ああ。うん、友達……まあ、友達か？
華　……。

華、出ていく。

石野　佐々木さん？

○広場

ベンチに座って牛乳を飲みながら模型を眺めている、謎の女。
そこへ、『宇宙戦争』を持って走ってくる、松崎。

松崎　あ、あの、お姉さん。
謎の女　ああ。
松崎　いやあ、感動しましたあ……『宇宙戦争』。
謎の女　……え、もう読んだの？
松崎　はい。
謎の女　本当に？
松崎　はい……いやあ、まさか（ポケットからカンペを取り出して）イギリスの？　片田舎に？　隕石らしきものが落下して……えー、そこから現れた火星人が……
謎の女　読んでないでしょ、なんかで調べたでしょう。
松崎　ああごめんなさい。その、模型、返してもらっていいですか？
謎の女　え？　ああ。

そこへパック牛乳と皿を持って現れる、華。

華　あ。
松崎　え、佐々木さん。
華　まだいる……。
謎の女　お友達？
松崎　あーあの、おんなじ授業取ってる、一個下の、後輩です。
華　え、なにしてるんですか？
松崎　……わかんない。
謎の女　（手帳を開いて）猫に対する都民の意識調査、よろしいですか？

華　え、え？
謎の女　あなたは猫が好きですか？　A、好き。B、嫌い。C……
華　A、好き。
松崎　あ、いい、いい。これ、すっごい時間かかるから。
華　はあ。
謎の女　（華が持っているものを見て）……え、あなたそれ。
華　えっ。
謎の女　この広場に、いるの？
華　え、え？
謎の女　猫。見たことあるの？
華　あ、いやあの、見たことはないんですけど。
謎の女　……ああ。
華　でも減ってるから、ミルク。多分いると思うんですよね、どっかに。
松崎　佐々木さん、ホントは駄目よ、野良猫に餌付けするの。
華　だってえ。
謎の女　（手帳に書き込んで）猫は……どこかに……いるかもしれない、っと。
華　ほんとに、なにしてるんですか？
松崎　ほんとにわかんない。
謎の女　ねえ、二人は、あの学校の生徒さん？　工場の裏の。
松崎　ああ、はい。そうっす。
謎の女　あの工場。昼も夜も、ずうっと煙、出てるでしょう、あんな小っちゃい工場なのに。
松崎　はあ。
謎の女　あの煙で、宇宙人は私たち人間を寂しくさせるの。懐かしい匂いで。（匂いを吸い込むように、深呼吸をする）そこを多分、さらってくのね……。
松崎　えっと……？
華　なんですか？
松崎　や、宇宙人にさらわれたんだって、旦那さんが。
華　え？
松崎　あくまで、この人の、主張だけどね。
華　ああ。

華、牛乳を皿に注いでベンチの下に置く。

謎の女　あの日は風が強かったからね、工場から出る煙が、ここまで来てて。真っ白だったの。空一面が。この街全部、覆い尽くしちゃうぐらい。
松崎　はあ……。
謎の女　だから怪しいのは、なに作ってんだか分かんない、あの工場。あそこにきっと、宇宙人がいるの。あの煙で、私たちを寂しい気持ちにさせるのね。
松崎　はあ。……なるほどお……。

華、自分のこめかみに人差し指を当て、ゆっくりと立ち上がる。

華　……行ってみます？　じゃあ。

謎の女　え？

松崎　ん？

華　だから……あの工場？

謎の女　え……

松崎　佐々木さん？

華　行きましょうよ。行ってみたら、分かりますよ。なに作ってるか。

謎の女　ああ。え？

華　すぐそこだし。行きましょ。なんだったら別に、中も案内しますよ。

と、歩き出す華。

松崎　え？　ちょっと、佐々木さん。

謎の女、立ち上がって華についていく。

松崎　え、え、え。どうすんすか。

謎の女　いや、だって。

華と謎の女、立ち去る。

松崎　ええ……？　ちょっと……。

一人取り残された松崎、都市の模型を持って二人の後を追う。

○工場・事務室

人生ゲームのルーレットを回す、石野。
そこへ現れる譲。

譲　なに、結局やりたくなってんじゃん。

石野　そういうわけじゃないけど。

譲　そ？

石野　てか、お前がほったらかしにするからでしょう。やることないのよ、一人で。

譲　えっじゃあ、やろうよ、人生ゲーム。

石野　そうじゃなくてさ。喋りたいこともあるでしょ、普通に。十五年ぶりなんだから。

譲　ああ。

石野　最近、どんな感じ？　みたいなさあ。そういう話をしたいのよ、おれは。お前と。

譲　ああ。……石野くんは、最近、どんな感じ？
石野　おう、いいね。
譲　なんか学校、やめちゃうんでしょ。
石野　やめるやめる。なんか、嫌になっちゃった。

ルーレットを回して、コマを進める石野。

石野　……なんかさ、ゴールが見えちゃうと、嫌んなったりしない？
譲　うん？
石野　途中までの、選択肢がいっぱいある時はさ、楽しいじゃない。こう、どっちにいこうかなって。
譲　え？　ん？
石野　いや、だからその、人生においても。何かをこう、アレする時においてもさ。あるじゃない、なんか、そうゆうの。
譲　んー、もうちょっと……シンプルに言うと？
石野　おれ先生になんかなりたくなかったわ。
譲　ああ……石野くん、公園とか作る人だもんね。
石野　うんまあ、公園だけじゃないけどな。
譲　あれは公園じゃないんだっけ？　広場？　……広場と公園って、どう違うの？
石野　そんな生徒みたいなこと聞くなよ。
譲　ああ、ごめん。
石野　あれはね、未完成ってことにしてんの。
譲　うん？
石野　あの広場。何にもないでしょ。あれは、まだ完成してないってことになってるから。おれの中で。
譲　ああ……？　いつ完成すんの？
石野　完成しない。もうずーっと、途中のまま。
譲　ふうん……？

ルーレットを回して、コマを進める石野。

石野　……お前んとこってさ。なに作ってんだっけ。
譲　へ？
石野　だから、工場で。
譲　ああ、人？
石野　……は？
譲　……人間。
石野　……え？
譲　うん。

譲、人生ゲームの人型のコマをつまみ上げて。

譲　これ作ってんの、うちで。
石野　え……ああ、それ？　……えっ人生ゲームの、パーツ作ってるってこと？
譲　ん、だから、この……人を作ってる。
石野　え、それだけを？　なんだそれ。無えだろ、そんな工場。
松崎（声）え、マジで？　うっそ、言ってよ佐々木さん。

そこへ華、謎の女、松崎がぞろぞろと現れる。

華　ただいま。
譲　お、かえり……？
華　お客さん。見学したいんだって。
譲　ああ。……え、今？
謎の女　こんばんはー。
松崎　ちょっ先生、何してるんすか、（人生ゲームを見て）めっちゃ楽しそうじゃないっすか、ちょっとお。
石野　ん、ん？
華　お兄ちゃん？
譲　ちょっと待って。全然頭ついてかない。
華　中庭から、煙突見たいんだって。この人。
譲　煙突？
華　なんか、煙出てるとこ、見たいって。
譲　え、ああ、うん？
華　（謎の女に）どぞ、
謎の女　すいませーん。
譲　はあ……。

華と謎の女、去る。

石野　（松崎に）え、これなに？　何してんの。
松崎　いやあ、もう、よくわかんないっす。……え先生、聞きたいことあるんすけど、いっすか。
石野　や、なんで今なの。
松崎　えーだって。先生、授業終わったらサクっと帰っちゃうじゃないですか。しかも辞めるとか言うし。おれ先生の授業マジで好きだったんすよ。
石野　おおん。
譲　（松崎に）えあの。……あなたは、華の友達？
松崎　はい？
譲　友達なの？　華と。

松崎　え？　いや、友達っていうか……まあ、先生の選択授業が一緒で。あでも学年違うんすよ、佐々木さんが一個下だから。
譲　それは……友達じゃない？
松崎　いや、おれ佐々木さんのこと、あんまよく知らないんで。あの、全然喋りますけどね。授業ん時は。
譲　あそお。
松崎　はい。
石野　（譲に）ん？
松崎　え先生。都市をゼロからつくるってことは、可能なんでしょうか？
石野　ん、ん？
松崎　いやだから。「理想の都市をつくる」っていう、課題だったじゃないですか。

譲、立ち上がって、出ていく。

石野　お？
譲（声）機械、アレしてくるー。
石野　え、ああ。
松崎　でもそれ、ちょっと違うんじゃないかって思ってて。おれ、実際に、この町を、理想の都市にしたいんですよ。
石野　うん？
松崎　いやだから、おれたちが住んでるこの町に、こう、人が？　また集まるようにしたいなって思ってて。……でもそしたら、一回全部、更地にしなきゃいけないでしょ？
石野　え？
松崎　だってこの町、もう、住む人いないじゃないですか。建物だけがいっぱいあって。
石野　そうねえ。
松崎　うん、だから例えば、隕石とかが落ちてきて。この町が、なーんにもない、更地になって。それで初めて、理想の都市が作れる、ってことになるんじゃないですか。
石野　……ああ。まあでも、落ちてこないから。隕石は。
松崎　いや、そうなんですけど。

譲、出入り口から顔を出して。

譲　一緒に見る？
石野　うん？
譲　工場ん中。
石野　え。
譲　意外と面白いよ。二人はなんか、中庭の方、行ったみたいだけど。
石野　ああ……
譲　来る？
石野　あーじゃあ……（と缶ビール片手に立ち上がる）

譲　おお。
松崎　えっ。じゃあ、おれも、いっすか。
譲　どうぞ、どうぞ。……こっち。
石野　おん。

譲、石野、松崎、出ていく。

○工場・中庭

華と謎の女、煙突を見上げている。

華　近くで見ると、意外と大っきいでしょ。
謎の女　ああ……（と、深呼吸する）
華　あっ、あんまそんな、吸い込まない方がいいかもしれないです。
謎の女　えっ。
華　いや、あれ、ほとんど水蒸気なんですけど。こう、水蒸気が、冷たい空気に触れたりとか……あとなんか、湿度がこう……アレしたりとかで、白く見えるっていう。
謎の女　ああ。
華　だから基本、人体に害は無い、ってなってるんですけど。微妙に違う物質とかが含まれてるみたいで。……あっ、基準はクリアしてるんですけどね。管理基準みたいな。
謎の女　（手帳に書き込んで）煙突に、怪しいところは、見られない、っと。
華　……すいません、なんか。
謎の女　えっ？
華　期待させといて、こんな感じで。
謎の女　ううん。そんなに早く、真相にはたどりつけないから。
華　ああ。
謎の女　あなたは大丈夫なの？
華　はい？
謎の女　こんな近くで毎日……あなたのお兄さんが、ここ、やってるんでしょう。
華　ああ、はい、一応。
謎の女　従業員は何人いるの？　昼も夜も、ずうっと煙、出てるじゃない。
華　ああ……一人です。
謎の女　えっ。
華　お兄ちゃん、一人だけでやってます。
謎の女　え、だって。
華　あの人、寝なくて平気だから。二十四時間、ずうっと働いてるんです。さっきは止まってましたけど。石野先生、来てたから。
謎の女　（手帳に書く）二十四時間、ずっと……え、そんなの無理でしょう。
華　はい。人間だったら、無理ですけど。
謎の女　えっ。

華　……。

華、謎の女に向かって手をかざす。

華　びび、びびび。
謎の女　……え？
華　あ、あの、光線みたいな。
謎の女　ああ、ああ。
華　びび、びびび。

二人、照れ笑いのような苦笑い。

華　（こめかみに人差し指を当て）お兄ちゃん、この女を押さえて。
謎の女　えっ？
華　（胸ポケットからデッサン人形を出して）「華、任せろ！」……ぎゅいん、ぎゅいん、ぎゅいーん。
謎の女　う、うわあー……？
華　はっはっはー。どうだ、まいったかー。
謎の女　わー……ごめんなさい、ちょっと出来ない。
華　あ、いや、すいません。
謎の女　いやいや、むしろなんか、うん。
華　全然、あの、すいません。はい。
・・・
華　なんか、宇宙人だったら、良かったのになあって。
謎の女　え？
華　思ってて。……自分が？
謎の女　ん、え？
華　だってなんか。わかんないんですよ。人のこと。
謎の女　え……
華　みんなが何考えてるかとか、こうゆう時、普通の人はどうするのかとか。全然わかんない。
謎の女　ああ……？

謎の女、『宇宙戦争』を差し出す。

謎の女　どうぞ。
華　えっ。
謎の女　H・G・ウェルズの『宇宙戦争』。これに全部、書いてあるから。宇宙人のことは。
華　え？
謎の女　全然わかんないんだけどね。あの人が、ずうっとこれ、読んでたから。

華　はあ。
謎の女　でも駄目なの、海外の小説って。誰が誰だか、分かんなくなっちゃう。
華　ああ。

華、『宇宙戦争』をパラパラとめくる。
本を置き、空に手をかざす。

華　迎えに来て。
謎の女　……ん？
華　あ、ＵＦＯを、呼んでます。
謎の女　ああ、ああ。
華　……一緒にやります？
謎の女　え、あ……

謎の女、手をかざす。

華　迎えに来て。
・・・
華　迎えに来てください。

松崎、現れる。

松崎　あー、なんかお兄さんが工場の中、案内してくれる、って言ってますけど。
謎の女　え？
松崎　てかなにやって、あああ！？　流れ星。
謎の女　えっ。
華　えっ。
松崎　ウケる、なんか二人が呼んだみたいになってる。
謎の女　ああ。
松崎　え、どうします？　行きます？
謎の女　ああ、うん。
松崎　佐々木さんは？
華　私は、もうちょっと。
松崎　……あそお？

松崎、謎の女、去る。

華　……。

華、空に手をかざす。

華　迎えに来て。
・・・
華　迎えに来てくださーい。

音楽（たま『星を食べる』など）。
以下、曲中で。

○工場・事務室

譲、一人戻ってきて、人生ゲームのルーレットを回し、コマを進める。
止まったマスに書かれていることをマイクで読み上げる。
華の幸せな人生。
別の場所（工場・中庭）にいる華、こめかみに指を当ててテレパシーを受信する。

譲　宇宙人と友達になる。八千ドル貰う。（ルーレットを回して）……スーパーのタイムセールでお弁当を買えた。五千ドルもらう。（回して）……昔集めていたシールが高値で売れた。一万ドルもらう。（回して）……結婚。相手を車に乗せる。ルーレットを回し、出た数によってみんなからお祝いをもらう。

そこへ石野が現れる。

石野　楽しい？
譲　やっぱ、一人だと微妙だね。
石野　うん。てかマジであるんだな、それだけ作ってる工場。
譲　おん。（ルーレットを回して）じゃあ、結婚とかもしないんだ。
石野　ん？
譲　さっきの……ゴールの話？
石野　ああ、意外とちゃんと伝わってたのな。
譲　てことでしょ。
石野　うーん。どうだろうねえ。
譲　華とか、どう？
石野　……おん？
譲　うん。華とかいいじゃん。おれ石野くんが華の彼氏になったら嬉しいけど。
石野　うわあ馬鹿だ、お前。気持ち悪ぃ。
譲　えなんでよ。
石野　うわあ馬鹿だ、マジで。うわあ。
譲　なに、そんな嫌がんないでよ。駄目？
石野　いやいやいや。駄目でしょそれは。さすがにさ。先生だよ？　おれ。
譲　もう先生じゃなくなるんでしょ。リコちゃん先生の旦那さんだって、元生徒だったしさ

あ。
石野　そうだけど……
譲　（マイクで）友達一人もいないんだから。彼氏ぐらい作ってほしいじゃない。兄貴としては。
石野　……お？
譲　一人も友達いないんだよ、あいつ。宇宙人だから。

○高校・美術室（十五年前）

シャドウボクシングをしている、譲。
都市の模型を前に、座っている石野。
十五年前の美術室。

石野　（シャドウボクシングをする譲をしばらく見て）佐々木くん……？
・・・
石野　この後ひま？
譲　ん？
石野　放課後。どっか行く？　佐々木くんちでもいいけど。
譲　え？　ああ、おれちょっと。用事あるわ。
石野　お？
譲　いや。突き止めたわ、結婚相手。
石野　ん、ん？
譲　リコちゃん先生の。結婚相手。
石野　……えっ、は？
譲　大丈夫、あとはおれに任せて。
石野　いやいや、え？　なに。
譲　分かってる。諦めなくていいから。おれ石野くんに、幸せになってほしい。
石野　……どういうこと？

譲、出て行く。

○高校・美術室（一年前）

華、石野に話しかける。

華　先生。
石野　うん？
華　先生もうすぐ、誕生日ですよね？
石野　え？　ああ、うん。
華　……これ。

と、銀色の石をポケットから取り出し、石野に差し出す華。

石野　え。
華　プレゼント？
石野　えーなにマジで？　ありがとう。（受け取って）えっと……なに？
華　月の石です。
石野　月の石？
華　はい。
石野　……おお、おお……えー。わー。……ありがとう。
華　それ持ってると、探し物が見つかる、っていう。
石野　え？
華　いや、私がいま考えたんですけど。
石野　なんだそれ。
華　ってか、月の石でもないんですけど。
石野　おお？
華　でもなんか。あげたくて。
石野　おん。ありがとう。
華　先生、私がもし、宇宙人だったら、どうします？
石野　えっ？
華　先生の脳内に、こう、テレパシーを送り続けてて。こっち見ろー、こっち見ろーって。やってたとしたら？
石野　ああ……「だからかあ」って思う。
華　……えっ。
石野　えっ。
華　えっ。
石野　ああ違う違う。ごめん。なしなし。
華　ああ。
石野　うん。
華　なんか。上手くいかないですね。
石野　え？
華　ずうっと必死で人間のふりしてる宇宙人みたいで。何にも上手くいかない。

華、立ち去る。

石野　あ、ちょっと……

石野、受け取った銀色の石をしばらく見つめる。
大机の上の、小さな広場の中に、その石を置く。
石は、広場の中のモニュメントのように見える。

音楽、消える。

○高校・美術室（現在・数日後）

小机で本を読んでいる石野。
大机では都市の模型の前で、松崎が腕組みしている。
学校鞄を持った華、入ってくる。
華の頭に触覚はない。

松崎　お、佐々木さん。
華　（石野を見て）あれ……時間通り来てる。
石野　……どうもー。
華　（松崎に）どうしたんですかね？　やっぱ、怒られたんですかね色々。
松崎　いや絶対そうでしょ。なんでわざわざ言っちゃうの。
華　ああ。
松崎　……え、てかどうすんの佐々木さん。
華　はい？
松崎　結局なんもしてないじゃん、課題。
華　え、ああ……でもなに作るかはもう、決まってるんで。
松崎　ああ、そうなんだ？
華　はい。
松崎　え、なに、どんなの作るの？
華　あー。先輩のは、どういう街なんでしたっけ？
松崎　……。
華　……先輩？
松崎　いや、なんかもう、最初っからやり直そうかな……。
華　え、だったらくださいよ、先輩の街。
松崎　やだよ。ってか、あげちゃったら作るもん無くなるじゃん。
華　ああ。私、別に街は何でもいいんで。
松崎　は？
華　街の中にいる、人を作りたいんで。
松崎　人？
華　はい。大っきい人とか小っちゃい人とか。色んな人を模型で作る、っていうのをやりたいんです。
松崎　……都市計画、関係ないじゃん。
華　あ、そっか。……え、駄目ですか先生。
石野　うーん。駄目です。
華　駄目かあ。
松崎　そりゃそうでしょ。てか真面目にアレしないとさあ（石野の方を見ながら、小声で）また嫌んなっちゃったらどうすんの。

華　うーん。

・・・

華　ある日の夜、ガサゴソという物音であなたは目を覚ましました。

松崎　ああ、出た。

華　するとビックリ、あなたの部屋に、宇宙人が侵入していました。逃げなくちゃ！　動揺するあなたに宇宙人が話しかけてきました。さて、なんと言った？　チッチッチッチッチッチ……

松崎　えー……友達になってよ。

華　……友達になってよ。……ファイナルアンサー？

松崎　ファイナル、アンサー。

（了）

引用：ハーバード・ジョージ・ウェルズ著／五十公野清一訳『宇宙戦争』（青空文庫より）